

第1回肝炎治療戦略会議 議事次第

日 時：平成20年5月27日（火）

14:00～16:00

場 所：厚生労働省 省議室（9階）

1. 開 会

舛添厚生労働大臣挨拶

2. 議 事

- (1) 肝炎に関するこれまでの研究状況について
- (2) 肝炎研究7ヵ年戦略骨子について
- (3) その他

3. 閉 会

(配布資料)

- 資料1 新しい肝炎総合対策の推進について
- 資料2 肝炎に関するこれまでの研究状況等
- 資料3 肝炎研究7ヵ年戦略骨子案
- 資料4 ウイルス肝炎治療の現状と治療薬開発の方向性
- 参考資料1 年度別肝炎等克服緊急対策研究事業新規採択課題一覧
- 参考資料2 治療水準の向上（診療体制の整備、治療方法の研究開発）

新しい肝炎総合対策の推進について

肝炎は国内最大の感染症であり、感染を放置すると肝硬変、肝がんへと進行し、重篤な病態を招くものである。しかしながら、肝炎に対する正しい理解が国民全てに定着しているとは言えず、早期発見のための検診率の向上、肝炎治療の効果的な推進は喫緊の課題である。

このため、与党肝炎対策に関するプロジェクトチームにおいては、本年六月以来六回にわたる検討を重ね、肝炎について検査から治療まで継ぎ目のない仕組みを構築するため、具体的な目標を掲げた新しい総合対策をとりまとめた。

政府において、年末の予算編成過程において必要な予算措置を検討し、適切な対応を図られることを求めるものである。

平成十九年十一月七日

自由民主党

政務調査会長

菅 亘 禎

公明党

政務調査会長

斎藤 鉄 夫

新しい肝炎総合対策の推進

与党肝炎対策に関するプロジェクトチーム

一、趣旨

国内最大の感染症である肝炎について、肝がんへの進行予防、肝炎治療の効果的推進のため、経済的負担軽減等により現在五万人であるインターフェロン治療の受療者の倍増を目指す。そのための総合的な施策を展開する。

二、検査から治療まで継ぎ目のない仕組みの構築

(肝炎ウイルス検査の促進)

今後基本的に全ての自治体・保険者・事業主において肝炎検査を実施し、二十歳代以上の国民全ての検査受診の機会を確保する。その際、保健所での無料検診、医療機関委託を推進する。

(感染したが症状のないときの健康管理の推進と安全、安心の肝炎治療の推進)

肝炎ウイルス検査等により感染が分かった者については、日々の健康管理、定期的な受診の勧奨など感染者の日常的な健康管理の支援を行うとともに、検診実施医療機関と専門医療機関の連携を促進する。

全都道府県での肝疾患診療連携拠点病院を設置し、相談・研修の実施を促進する。

また、国において先進的な肝炎治療を推進し、肝硬変、肝がんへの進行予防や治療に関するガイドラインの作成、改訂を行う。

(インターフェロン治療の促進のための環境整備)

今後おおむね七年間で、インターフェロン治療を必要とする肝炎患者全てが治療を受けられる機会を確保する。このため次のような施策を講じ、肝炎患者がインターフェロン治療を受けやすい環境を整備する。

- ・どこでも安心して治療が受けられるよう病院・診療所に対する適切な情報提供、研修の促進
 - ・インターフェロン治療の経済的負担の軽減(別紙)
 - ・治療期間中の入院、検査等に伴う休暇の取得促進
 - ・保健所、肝疾患診療連携拠点病院での心のケア、相談体制の充実
- また、インターフェロン治療の対象患者の増加の実態を踏まえ、薬価の引き下げを検討する。

(肝硬変、肝がん患者への対応)

心身両面のケア、医師の研修による治療水準の向上に取り組む。

三、国民に対する正しい知識の普及と理解

肝炎に関し国民各層の理解を深めるため、教育、職場、地域あらゆる方面に対する働きかけを行い、正しい知識の普及を推進する。

四、研究の促進

無症候性キャリアを含む肝疾患の新たな治療方法の研究開発を促進、支援するとともに、治療薬等についての速やかな薬事承認、保険適用を行う。

(別紙)

○ 医療費助成の枠組みについて

まず来年から行うべきものとして、国内最大の感染症である肝炎について、肝がんへの進行予防、肝炎治療の効果的推進のため、経済的負担軽減や啓発活動等により現在五万人であるインターフェロン治療の受療者の倍増を目指す。

これにより今後七年間でインターフェロン治療を必要とする全ての肝炎患者がその治療を受けられることとなる。

○ B型及びC型肝炎のインターフェロン治療を対象とする。

○ 自己負担については、所得階層に応じた負担軽減を、他の医療関係制度と整合性を考慮の上、行う。

負担軽減に当たっては、対象となる治療はウイルスの排除という患者本人に大きな利益があることから、一定の自己負担を求めることとする。具体的には、下位所得者(対象者の約五割)については月一万円、上位所得者(対象者の約二割)については月五万円とし、それ以外の者(対象者の約三割)については月三万円を窓口負担の上限とする。

○ 国と地方が協力して対策を講じることとし、財源についても応分の負担とする(国一地方一)。

以上に関して必要な予算措置については、今後予算編成過程で検討し、適切に対処する。

なお、この対策の実施後三年を目途に実施状況を評価し、必要な見直しを行う。

肝炎研究事業の変遷について

年代	研究事業
昭和30年	・血清肝炎調査研究班(38年)
昭和40年～49年	・厚生省特定疾患:難治性の肝炎調査研究班(47年) (「科学技術庁:血清肝炎の特別研究」(46年)を引き継
昭和50年～59年	・厚生省特定疾患:肝炎胆汁うっ滞調査研究班(50年) ・B型ワクチン研究開始(51年)(「科学技術庁のB型肝炎ワクチン研究補助」を引き継ぐ ・厚生省特定疾患:難治性の肝炎調査研究班(53年)
昭和60年～63年	・厚生省特定疾患:難治性の肝疾患調査研究班(62年)・(ウイルス型肝炎関係が厚生省非A非B肝炎研究班に移行)
平成元年～9年	・厚生省非A非B型肝炎研究班(平成元年)(平成10年度新興・再興感染症事業に移行)
平成10年～20年	・厚生科学研究費補助金:新興・再興感染症研究事業(10年) ・厚生労働科学研究費補助金:肝炎等克服緊急対策研究事業(肝炎分野)(14年)→現在も継続

肝炎等克服緊急対策研究事業採択課題表

①肝炎治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
肝炎ウイルス等の標準的治療困難例に対する治療法の確立に関する研究							
		C型肝炎への肝移植後の免疫抑制法に関する研究					
輸血後肝炎に関する研究							
血液透析施設におけるC型肝炎感染事故防止体制の確立に関する研究							
歯科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究							
				C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究			
C型肝炎ウイルス感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究		B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究			肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究		
本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究		E型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究					
		B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防確立のための感染病態解明に関する研究					
		生体肝移植後のC型肝炎再発防止を目指したステロイド剤不使用による免疫抑制療法					
				肝炎ウイルスにより惹起される炎症性誘発要因及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎制圧			
				肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築			
				non-codingRNAを用いた新たな慢性C型肝炎制御による治療法開発			
				ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発			
				テーラーメイド治療を目指した肝炎ウイルスデータベース構築に関する研究			
				肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究			
				データマイニング手法を用いた効果的な治療方法に関する研究			
				非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法、治療法の開発に関する研究			
				Claudin-1を標的としたC型肝炎ウイルス感染阻害法の開発とその臨床応用に向けた疫学調査			
				リツキシマブ+ステロイド併用悪性リンパ腫治療中のB型肝炎ウイルス再活性化への対策に関する研究			

②肝硬変治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
			肝硬変に対する治療に関する研究				
						インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用	
						肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究	

③肝がん治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
進行肝がんに対する集学的治療に関する研究							
肝がん患者のQOL向上に関する研究							
肝がんに対する肝移植の有効性とその適応基準の確立に関する研究							
肝炎対策としての肝がんの研究		予後改善を目指した肝臓がん再発に影響を与える因子に関する研究			ウイルス肝炎による肝がんの再発防止メカニズムの解明に関する研究		
既存の肝がん治療法の有効性に関する研究							
		病期別にみた肝がん治療法の費用効果およびQOLの観点からみた有効性に関する研究					
C型肝炎ウイルスの感染による肝炎・肝硬変及び肝がん発生等の病態の解明に関する研究		B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究			B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法の開発に関する研究		
肝がんの発生予防に資するC型肝炎健診の効率的な実施に関する研究		新規癌胎児性抗原を利用した肝細胞癌の診断と治療					
新しい肝がん発症予防法および治療法の開発に関する研究					肝がん患者のQOL向上に関する研究		
					肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発		
					癌胎児性抗原を利用した肝がんの超早期診断法と発症予防ワクチンの開発		

⑤肝炎等疫学研究に関するテーマ

平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
職場における慢性肝炎の増悪要因(化学物質暴露等)及び健康管理に関する研究							
C型肝炎の自然経過および介入による影響等の評価を含む疫学的研究		B型及びC型肝炎の疫学及び健診を含む肝炎対策に関する研究			肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究		
歯科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究							
				歯科診療におけるB型及びC型肝炎防止体制の確立に関する研究			
				L3分画および血流中癌細胞テロメラーゼを指標とした肝細胞癌のサーベイランスの有用性			
血液透析施設におけるC型肝炎感染事故防止体制の確立に関する研究				透析施設におけるC型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究			
肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究				ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究			
				肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究			
				肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究		肝炎の予防および治療対策に関する費用対効果分析	
				C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究			
				肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究			
				C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究			
本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究				E型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究			

これまでの研究成果(例)

(基礎研究分野)

- チンパンジーでしか行えなかったHCV 感染実験モデルから遺伝子組み換え技術を駆使し、ヒト肝細胞キメラマウスを作成し、その安定性を確認した。同感染モデルを用い、C 型肝炎ワクチン開発のヒントを得、実用化に向けて研究中。また、感染から発がんまでのメカニズムが解明できれば、肝疾患の進展予防、新規治療法への道筋ができる。

(臨床研究分野)

- ウィルス性肝炎、肝硬変、肝がんに対する新規創薬について、各症例におけるジェノミクス解析を行い、結果を得た。これによって、新規創薬の開発の糸口が得られ、実用化につながる可能性がある。

(疫学研究分野)

- 日赤の献血データを解析し、日本におけるB 型、C 型肝炎ウィルスクヤリア数の推計の基礎データを確立した。また、性行為によって感染するB 型肝炎のGenotype A についての疫学データを集積した。

注) ジェノミクス解析・応用: ある疾患の患者から得られた遺伝子および遺伝子産物から、疾患との関連の程度を解析し、その解析結果から新規治療薬の開発が期待されている。

肝炎研究7カ年戦略（骨子案）

1. これまでの肝炎研究の成果：

ペグインターフェロンとリバビリンの併用療法の開発による飛躍的な治療効果の向上、ヒト肝細胞キメラマウスの作成によるC型肝炎ワクチンの開発の基礎の確立、キャリア推計の基礎データの取得など、基礎、臨床、疫学研究分野において、様々な成果が得られた。（平成14年度～「肝炎等克服緊急対策研究」）

2. 現状及び課題：

- ・ウイルス性肝炎に対するインターフェロン治療は副作用が強く、離脱者・非適応者が少なくない。
- ・ウイルス性肝炎において、改善はみられるもののインターフェロン難治症例が存在。
- ・肝硬変、肝がんの根治治療は多くの症例で困難であり、対症療法が中心。
- ・基礎、臨床、疫学研究各分野において、人材不足（特に基礎、疫学分野）。

3. 戦略の目標：

4. 今後の研究における方向性：

5. 今後期待される新たな研究課題：

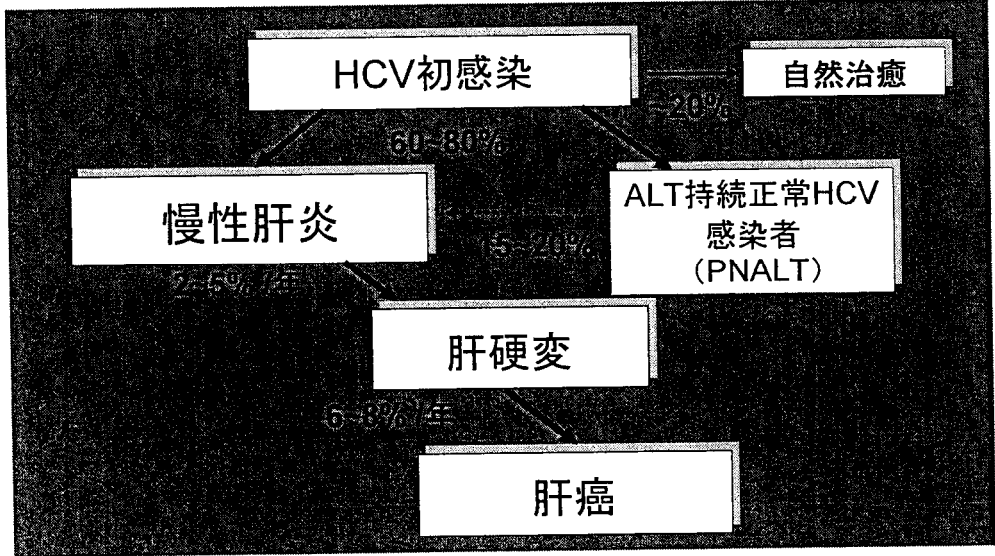
- ・ B型肝炎：
- ・ C型肝炎：
- ・ 肝硬変：
- ・ 肝がん：
- ・ 基礎：
- ・ 疫学：

6. 方向性実現のための具体策：

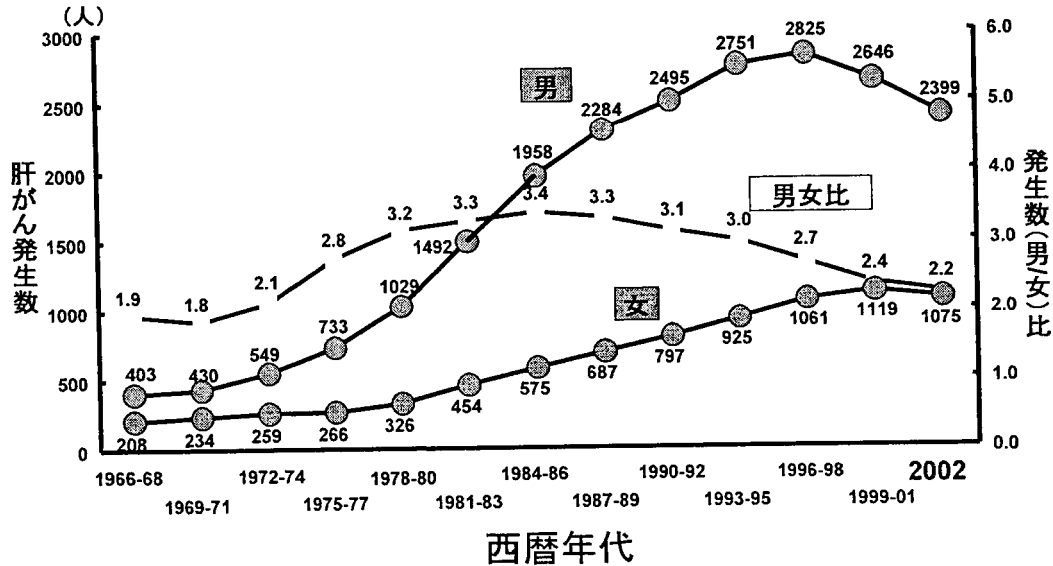
7. 戦略の評価と見直し：



HCV感染の自然経過



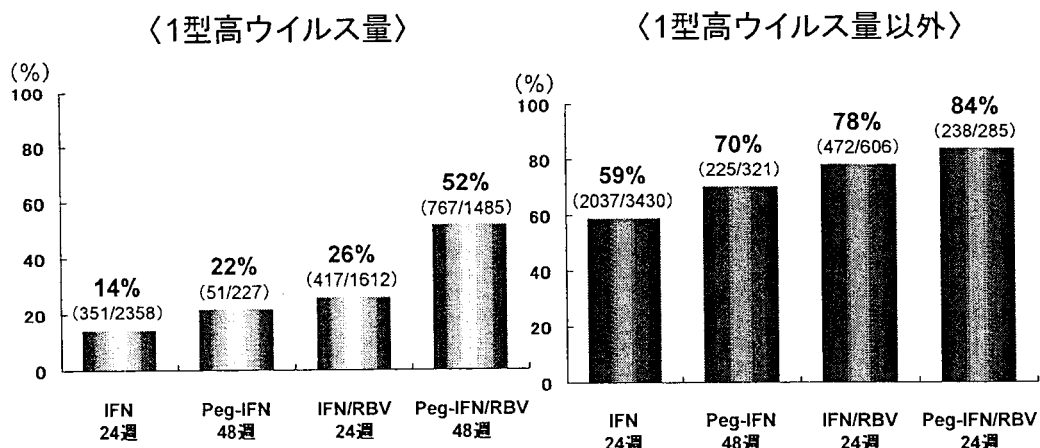
原発性肝がん発生数の年次推移と男女比 (年平均、大阪府がん登録資料)



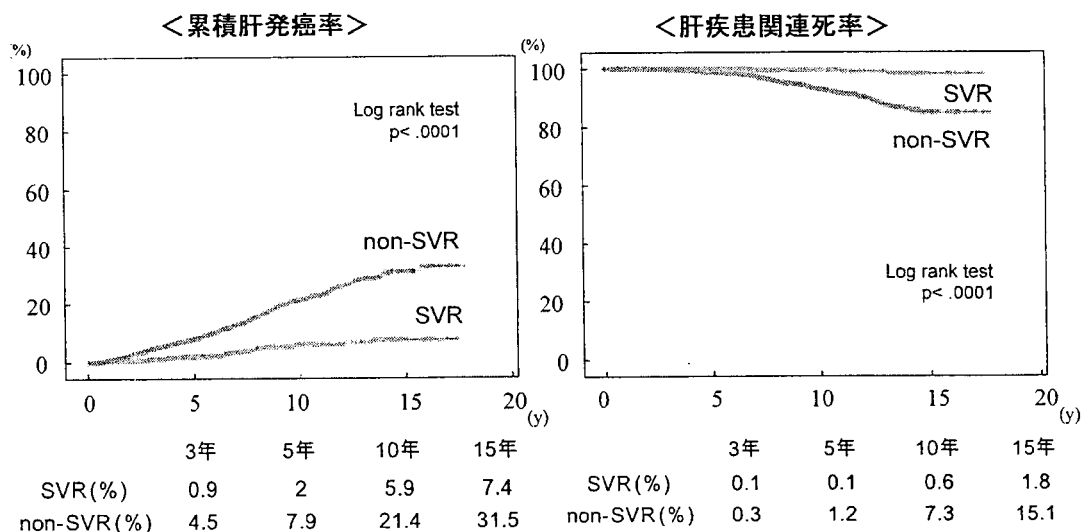
本邦におけるインターフェロン治療の変遷

1. IFN単独治療 (1992年)
2. IFNとリバビリンの併用 (2001年12月)
3. IFN長期投与 (2002年2月)
4. Peg-IFN α -2a単独治療 (2003年12月)
5. Peg-IFN α -2bとリバビリンの併用 (2004年12月)
6. 在宅自己注射 (2005年4月)
7. Peg-IFN α -2bとリバビリンの併用の適応拡大
(2005年12月)
8. Peg-IFN α -2aとリバビリンの併用 (2007年3月)

治療方法別の著効率 (PPS)



肝発癌率・肝疾患関連死亡率 (全症例)

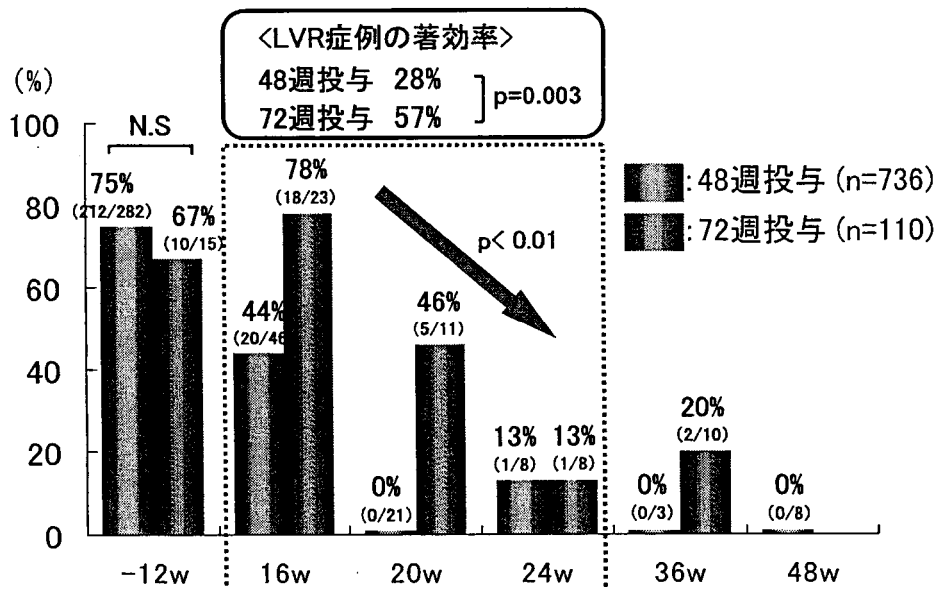


性別・年齢別の著効率 (PPS)

	男性	女性	p value
65歳未満	49% (110/226)	56% (74/132)	0.19
65歳以上	39% (18/46)	33% ↓ (13/39)	0.65
p value	0.26	0.02	

(標準投与量開始:n = 886)

HCV-RNA陰性化時期別の著効率



新たなC型肝炎治療薬の開発

抗ウイルス作用の増強

- ✓ 新しいIFN製剤
Albuferon
- ✓ 新しいリバビリン様製剤
Viramidine、Taribavirin
- ✓ HCV選択的抗ウイルス剤

Telaprevir、Boceprevir
TMC435350、MK-7009
ポリメラーゼ阻害剤
NM-283、HCV-796
R1626、R7128

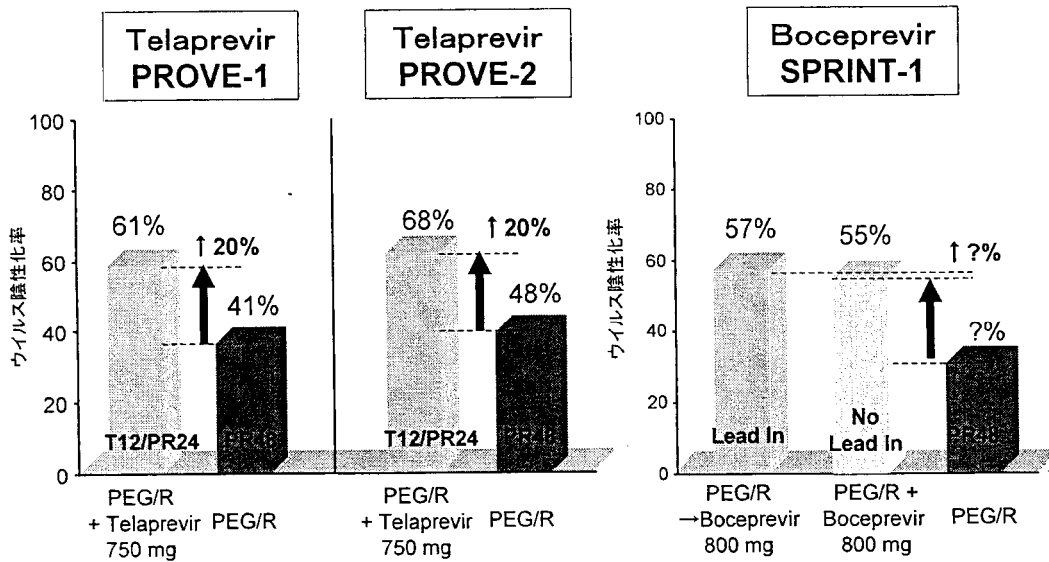
免疫賦活作用の増強

- ✓ サイトカイン
- ✓ 免疫修飾剤
- ✓ DCワクチン
- ✓ TLRアゴニスト
Isatoribine

その他

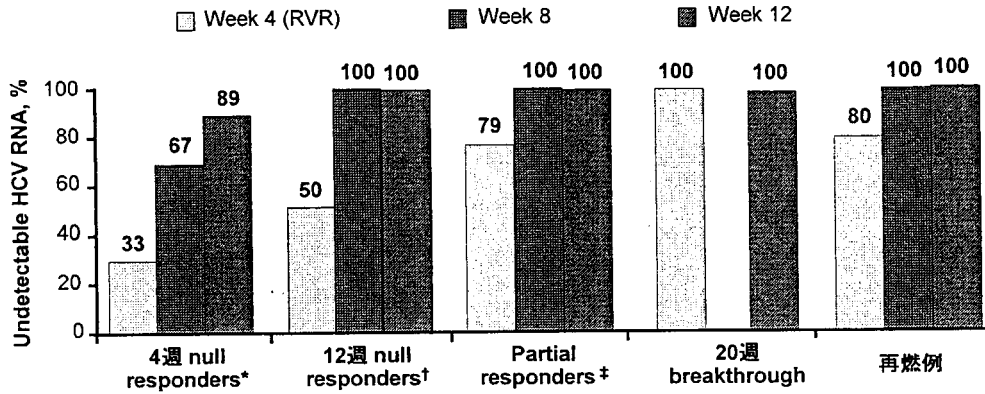
Nitazoxanide

プロテアーゼ阻害剤との併用試験におけるSVRの比較



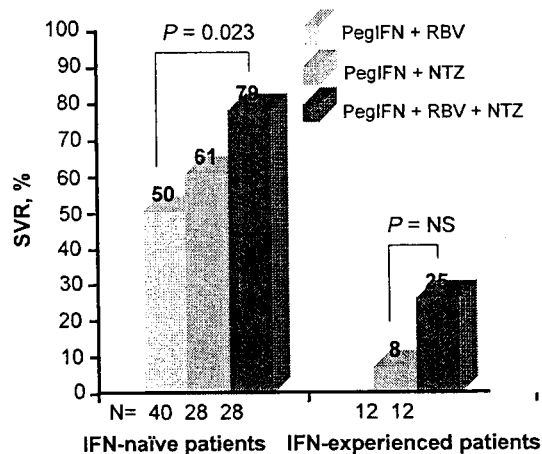
Peg/RBV無効・再燃例に対するTelaprevir + PegIFN alfa/RBV併用療法

- PROVE1-3スタディにおける比較対照群の症例からのオープンラベル治療



Nitazoxanide + PegIFN ± RBV in G4 HCV Patients

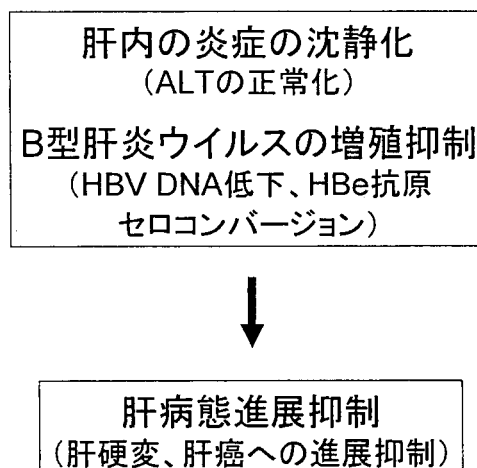
- 77 patients completed nitazoxanide lead in
 - Week-12 HCV RNA reduction: 0.26 \log_{10} IU/mL ($P = .0032$)
- RVR (IFN-naïve patients)
 - PegIFN + RBV: 38%
 - PegIFN + RBV + NTZ: 64% ($P = .048$)
- No increase in side effects noted in NTZ arms vs SOC



C型肝炎の今後の課題

- 1) IFN治療(リビリン併用例も含む)無効例(再燃例も含む)に対する治療法の開発
- 2) IFN治療離脱例・非適応例に対する治療法の開発
- 3) 肝硬変に対する治療法の開発
(発がん予防法の確立)
- 4) 肝がん治療後の再発抑制法の開発
- 5) PNALT(ALT正常者)の治療
- 6) 治療対象で未治療例への対策
- 7) HCV検査の未実施者への対策

B型肝炎患者に対する抗ウイルス治療の目標



B型肝炎における抗ウイルス療法

1) インターフェロン

- インターフェロン α 、インターフェロン β 6ヶ月投与
- ペグインターフェロン $\alpha 2a$ 1年間投与 (臨床試験中)

2) HVB逆転写酵素阻害剤

- ラミブジン (lamivudine) (2000年9月)
- アデフォビル (adefovir dipivoxil) (2004年10月)
- エンテカビル (entecavir) (2006年7月)
- テノフォビル (Tenofovir) 他

3) インターフェロン、逆転写酵素阻害剤併用療法

B型肝炎の今後の課題

- 1) HBVに対する新たな抗ウイルス剤の開発
- 2) 外国で開発された抗ウイルス剤の本邦への導入の促進
- 3) 治療ガイドラインの本邦での普及
- 4) 専門医受診の促進
- 5) HBV検査未受診への対策

今後期待される新たな研究課題

- B型肝炎: インターフェロン以外の根治療法の開発、核酸アナログ製剤の新規開発、核酸アナログ製剤とPeg-IFN併用の臨床的評価
- C型肝炎: ペグインターフェロン、リバビリン、プロテアーゼインヒビター3剤併用の評価、宿主側因子の強化に関連する製剤の開発、ALT正常型C型肝炎へのアプローチ
- 肝硬変 : iPS細胞などを利用した再生医療による根治治療、肝の線維化抑制: ①肝星細胞の抑制、②Angiotensin-renin-blocker (ARB)製剤、③骨髄細胞分画移植
- 肝がん : IFN少量長期療法の発がん予防検証、早期発見用診断マーカー開発、肝がん再発因子の明確化、抗がん剤の新規開発
- 基礎研究: 薬剤耐性ウイルスの機序解明、ヒトiPS細胞などを利用したHCVワクチン開発
- 疫学 : ウイルス肝炎の患者・感染者数の把握、その長期経過・予後調査をデータベース化

方向性実現のための具体策

- 肝炎研究費の充実
- 国立感染症研究所等国内の関係の機関における肝炎研究の活性化
- 国内の研究者の養成
- 海外との交流

年度別肝炎等克服緊急対策研究事業新規採択課題一覧

- ①肝炎治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ
- ②肝硬変治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ
- ③肝がん治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ
- ④新しいウイルス肝炎治療薬の開発に向けた基礎研究の方向性に関するテーマ
- ⑤肝炎等疫学研究に関するテーマ

平成20年度新規採択課題

No.	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
①	佐田 通夫	久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門	教授	肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究
	泉 並木	武蔵野赤十字病院消化器科	部長	データマイニング手法を用いた効果的なC型肝炎治療法に関する研究
	八橋 弘	独立行政法人公立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター	治療研究部長	データマイニング手法を用いた効果的な治療方法に関する研究
	岡上 武	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会吹田病院内科	院長	非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法、治療法の開発に関する研究
	磯田 勝広	国立大学法人 大阪大学大学院薬学研究科	助教	Claudin-1を標的としたC型肝炎ウイルス感染阻害法の開発とその臨床応用に向けた疫学調査
	楠本 茂	公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学	助教	リツキシマブ+ステロイド併用悪性リンパ腫治療中のB型肝炎ウイルス再活性化への対策に関する研究
②	河田 則文	大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学	教授	インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用
	鈴木 一幸	岩手医科大学医学部第一内科	教授	肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究
③	有井 茂樹	国立大学法人東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	教授	肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発
	中面 哲也	国立がんセンター東病院 臨床開発センターがん治療開発部	機能再生室長	癌胎児性抗原を利用した肝がんの超早期診断法と発症予防ワクチンの開発
④	茶山 一彰	広島大学病院 消化器内科	教授	ヒト肝細胞キメラマウスを用いた治療抵抗性の肝炎に関する研究
	石井 孝司	国立感染症研究所ウイルス第二部	主任研究官	肝炎ウイルスワクチン実用化のための基礎的研究
	鈴木 哲朗	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	C型肝炎ウイルスキャリア成立の分子基盤と新規治療薬開発のための基礎的研究
	北島 智子	国立感染症研究所	企画調整主幹	肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究
⑤	井出 博生	東京大学医学部付属病院	助教	肝炎の予防および治療対策に関する費用対効果分析

平成19年度新規採択課題

No.	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
①	下 遠 野 邦 忠	慶応義塾大学医学部	教授	肝炎ウイルスにより惹起される炎症性誘発要因及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎征圧
	榎 本 信 幸	山梨大学大学院医学工学総合研究部	教授	薬剤耐性肝炎ウイルス感染の病態解明と対策に関する研究
	村 上 善 基	京都大学医学研究科	産学官 連携 准 教授	non-codingRNAを用いた新たな慢性C型肝炎制御による治療法開発
	林 紀 夫	大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学	教授	B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法の開発に関する研究
	金 子 周 一	金沢大学大学院医学系研究科	教授	ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発
	熊 田 博 光	虎の門病院分院肝臓センター	院長	肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究
③	溝 上 雅 史	公立大学法人名古屋市立大学大学院研究科	教授	テーラーメイド治療を目指した肝炎ウイルスデータベース構築に関する研究
	小 俣 政 男	東京大学医学部附属病院(消化器内科)	教授	ウイルス肝炎による肝がんの再発防止メカニズムの解明に関する研究
④	山 口 一 成	国立感染症研究所血液・安全性研究部	部長	ウイルス肝炎感染防止体制の確立に関する総合研究
	脇 田 隆 字	国立感染症研究所ウイルス第二部	部長	肝炎ウイルスの培養系を用いた新規肝炎治療法の開発
	水 落 利 明	国立感染症研究所血液・安全性研究部	室長	肝炎ウイルス感染防御を目指したワクチン接種の基盤構築
	松 浦 善 治	大阪大学微生物病研究所	教授	HCV感染における宿主応答の分子機構の解析と新規創薬標的の探索
⑤	田 中 純 子	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・疾病制御学	准教授	肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究

平成18年度新規採択課題

No.	研究代表者	所属施設	職名	研究課題
③	藤 原 研 司	独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院	院長	肝がん患者のQOL向上に関する研究
④	小 池 和 彦	東京大学医学部附属病院	教授	肝炎ウイルス感染の肝外病変の基礎的及び臨床的包括研究
⑤	矢 野 公 士	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	室長	E型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究
	秋 葉 隆	東京女子医科大学血液浄化療法科	教授	透析施設におけるC型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究
	井 上 真 奈 美	国立がんセンターがん予防・検診研究センター	室長	C型肝炎の状況・長期予後の疫学像の解明に関する研究

平成17年度新規採択課題

①	大 戸 齊	福島県立医科大学医学部	教授	C型肝炎ウイルスの母子感染防止に関する研究
②	八 橋 弘	国立病院機構長崎医療センター臨床研修センター治療研究部	部長	肝硬変に対する治療に関する研究
③	西 村 泰 治	熊本大学大学院医学薬学研究部	教授	新規癌胎児性抗原を利用した肝細胞癌の診断と治療
④	茶 山 一 彰	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	C型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム解析を用いた治療標的分子の網羅的検索系とヒト肝細胞キメラマウスHCV感染モデルを用いた実証系の開発に関する研究
	宮 村 達 男	国立感染症研究所ウイルス第二部	部長	C型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関する基礎研究
	脇 田 隆 字	東京都医学研究機構東京都神経科学総合研究所	副参事 研究員	培養細胞で感染複製および粒子形成が可能なC型肝炎ウイルス株を利用したワクチン開発
	三 宅 智	国立感染症研究所	企画調 整主幹	肝炎等の早期克服のための総合的推進に関する総括研究
⑤	青 柳 豊	新潟大学教育研究院医歯学系	教授	L3分画および流血中癌細胞テロメラーゼを指標とした肝細胞癌のサーベイランスの有用性

平成16年度新規採択課題

①	河田 純 男	山形大学医学部	教授	B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防法の確立のための感染病態解明に関する研究
	林 紀 夫	大阪大学大学院医学系研究科	教授	B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究
	吉澤 浩 司	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	教授	B型及びC型肝炎の疫学及び検診を含む肝炎対策に関する研究
	熊田 博 光	虎の門病院	副院長	B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究
	門田 守 人	大阪大学大学院・医学系研究科 病態制御外科	教授	C型肝炎への肝移植後の免疫抑制法に関する研究
③	高田 泰 次	京都大学医学部附属病院移植外科	助教授	生体肝移植後のC型肝炎再発予防を目指したステロイド剤不使用による免疫抑制療法に関する研究
	沖田 極	山口大学医学部	教授	病期別にみた肝がん治療法の費用効果およびQOLの観点からみた有効性に関する研究
⑤	小俣 政 男	東京大学大学院医学系研究科	教授	予後改善を目指した肝臓がん再発に影響を与える因子に関する研究
	佐藤 田 鶴子	日本歯科大学歯学部	教授	歯科診療におけるB型及びC型肝炎防止体制の確立に関する研究

平成15年度新規採択課題

①	三代 俊 治	東芝病院研究部	部長	本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究
---	--------	---------	----	---------------------------

平成14年度新規採択課題

①	八橋 弘	国立病院長崎医療センター 臨床研究センター	部長	肝炎ウイルス等の標準的治療困難例に対する治療法の確立に関する研究
	菊地 秀	国立郡山病院	院長	輸血後肝炎に関する研究
	山崎 親雄	社団法人日本透析医会	会長	血液透析施設におけるC型肝炎感染事故(含:透析事故)防止体制の確立に関する研究
	古屋 英毅	日本歯科大学歯学部	教授	歯科診療におけるC型肝炎の感染リスク低減に関する研究
	白木 和夫	鳥取大学医学部小児科学	名誉教授	C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究
②	石井 裕正	慶應義塾大学医学部 消化器内科学	教授	末期肝硬変に対する治療に関する研究
③	門田 守人	大阪大学大学院・医学系研究科 病態制御外科	教授	進行肝がんに対する集学的治療に関する研究
	藤原 研司	埼玉医科大学医学部	教授	肝がん患者のQOL向上に関する研究
④	奥村 二郎	国立感染症研究所	企画調整主幹	肝炎等の早期克服のための研究の総合的推進に関する総括研究
	加藤 宣之	岡山大学大学院 医歯学総合研究科	教授	肝炎ウイルスによる宿主細胞がん化メカニズムの解明に関する研究
	油谷 浩幸	東京大学 国際・産学共同研究センター	教授	新規肝がん関連遺伝子の網羅的探索とDNAチップを用いた遺伝子の相互関連性に関する研究
	小池 和彦	東京大学医学部感染症内科	助教授	トランスジェニック・マウスを用いた肝発がんメカニズムの解析
	松浦 善治	大阪大学微生物病研究所 エマージング感染症研究センター	教授	慢性C型肝炎に対する治療用ヒト型抗体の開発に関する研究
⑤	川本 俊弘	産業医科大学医学部衛生学講座	教授	職場における慢性肝炎の増悪要因(化学物質暴露等)及び健康管理に関する研究

治療水準の向上(診療体制の整備、治療方法の研究開発)

肝炎等克服緊急対策研究事業予算 (平成14年度～平成20年度)

(単位:百万円)

